

「榕城小学校の校区の文化財探訪の取組」

1 学校名

西之表市立榕城小学校

2 学年・人数

4年1組 38人 2組 38人 計76人

3 日時・場所

- (1) 学習会：11月の事前指導 総合的な学習の時間
- (2) 文化財ウォークラリー：令和3年11月19日（金）一日遠足

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について（西之表市HP引用）

(1) 名称・時代

ア 岸岐と築島（がんぎとつきしま）

第23代島主久道夫人，松寿院が夫の死後行った事業の一つです。赤尾木湾の航行の安全を図るため，薩摩藩の多額の援助で改修工事を行った。現在でも破損することなく現存している。

イ 栖林神社（せいらんじんじゃ）

本源寺隣に位置する，19代島主「種子島久基」を祭った神社で，久基は名君の誉れ高き人物で，「からいもの神様」と呼ばれ，その徳を偲んで創建された。

ウ 八板金兵衛像（やいたきんべえぞう）

ポルトガル人から鉄砲製造技術を学び，国産第1号の火縄銃を製造した功績を称えて建てられた銅像である。

エ 種子島時堯公像（たねがしまときたかこうぞう）

1543年(天文12年)14代島主種子島時堯はポルトガル人から購入した鉄砲で初の国産銃製造に成功した。日本の歴史を大きく変えた鉄砲の先駆者である。

オ 種子島開発総合センター「鉄砲館」

（たねがしまかいはずそうごうせんたー「てっぽうかん」）

異国の南蛮船をイメージした外観が目を引く，種子島の全てがわかる総合博物館で，種子島の歴史・自然・民俗・文化など種子島の全てを知ることができる。

カ 八坂神社（やさかじんじゃ）

西之表市榕城西町に鎮座する。祭神は，素戔鳴尊(スサノオノミコト)で，明治20年に慈遠寺跡地に社殿を遷座して今日に至っている。商売繁盛の神様として祀られている。

(2) 特徴

本校（榕城小）敷地は，種子島氏の居城址であり，本校区周辺には，上記以外にも多くの史跡が残っており，短時間での史跡巡りをすることができる。

5 保存会や地域との連携の具体

教師による実施前の教材研究（実踏）時に，地域住民（本校の司書補）の方や種子島開発センター（鉄砲館）の学芸員の方から文化財の価値や実施方法等で指導を受ける。また，雨天時を想定して，本校司書補による講話「写真で振り返る 昔の西之表市」を依頼，準備していただいた。

当日は，保護者にウォークラリーのコースにある沿道に立ち，安全指導や学習支援をいただいたり，学習の成果発表の授業を参観いただいたりした。

6 活用の取組の工夫した点

児童が安全にウォークラリーに参加できるよう、事前にコースを確認するとともに、当日は史跡についてクイズで学べるようワークシートを工夫し、興味を持って意欲的に楽しく参加できるようにした。

7 取組の様子（見学場所での様子）



【岸岐と築島】



【栖林神社】



【種子島時堯公像】



【八板金兵衛像】



【種子島開発センター「鉄砲館」】



【八坂神社】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 森永先生（担任教師）がよく話してくれる榕城校区の素晴らしさが、史跡を見学することでよく分かった。
- ・ たくさんの史跡があり、昔から私たちの学校の校区は歴史があってすごいところだったのだなと勉強になった。

【教員】

- ・ 地域の方や保護者の方々の協力によって、怪我なく、充実した活動になり感謝している。今後も地域と連携した教育活動を企画・実施していきたい。
- ・ 夏季休業中の職員研修「校区の史跡めぐり（危険箇所点検を兼ねて）」の実施方法を生かして取り組むことができた。教職員用に作成したQRコードを活用した史跡の説明文及び画像や動画は、児童1人1台端末を使うことで活用可能となり、今後もより広く活動を展開できると思う。

【地域（司書補）と保護者】

- ・ 校区の昔の写真を収集し、児童たちに紹介することができるよう準備している。今回はウォークラリーでの活用はなかったものの、図書的时间等で紹介していきたいと思う。児童たちに伝えることで、私自身もこれまでを振り返り、故郷について考える貴重な機会となっており、感謝している。
- ・ 児童たちが真剣に尋ねてくるので、私も説明文を再度読み返して質問に答えた。児童にとって勉強になり楽しい遠足になった。ありがとうございました。